

伊勢志摩TSUTAE隊

掘り起こそう!伊勢志摩の魅力と地域の宝

伊勢志摩国立公園の魅力を再発見し、発信する活動です。実際に地域を訪れ、真珠の浜揚げ作業やきんこ芋の製造工程などの地域産業を見学しました。また、伊勢まつりへの出店や、小学生向けの下敷き・パンフレット制作を通して、地域の子どもたちにその魅力を伝える企画・運営を行っています。

- メンバー数：4名
- 活動場所：伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町
- 実施主体：伊勢志摩国立公園協会
- 担当教員：栗林 梓（文学部）
- 活動年度：R07



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

本年度、私たちは小学生に配布する下敷きとパンフレットの制作を通じ、伊勢志摩国立公園の魅力次世代へ伝える活動に取り組んできました。主な活動として、夏に2回、冬に1回の計3回にわたる現地調査を実施しました。

夏の調査では伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町を巡り、国立公園の豊かな自然と文化への知見を深めました。その成果を反映させて考察した「伊勢志摩すごろく」を伊勢まつりに出展したところ、多くの子どもたちに楽しんでもらうことができ、遊びを通じた地域学習の手助けを感じることができました。

冬の調査では、伊勢志摩の特産品に携わる方々の仕事現場を見学しました。知人の紹介を通じた独自の聞き取り調査も行い、特産品の魅力だけでなく地域が抱える課題についても直接伺うことができました。パンフレットの内容検討では、地域の「手間暇がかかっているもの」をテーマに掲げ、メンバー間で「伊勢神宮の神饌」や「伊勢海老」などアイデアを出し合いました。その後の会議を経て、最終的に「きんこ芋」と「真珠養殖」に焦点を当てることを決定し、現地調査を通じてその製法や歴史への認識をさらに深めました。

一方で、活動を通じた課題も明確になりました。最大の懸念は活動メンバーの少なさです。少人数ゆえに、会議の場では学生が主体となって議論をリードすることが難しく、実施団体の方々に進行を委ねてしまう場面が多く見られました。また、伊勢まつりなどのイベントにおいても、人員不足から活動範囲を十分に広げられなかった点は、今後の参加者募集における重要な反省点です。

表現の面でも困難に直面しました。SNSによる情報収集が主流の現代において、現地地しか伝わらない「体感的な魅力」をいかに子ども向けに文章に落とし込むかという点に苦しみました。まだ完成品を子どもたちに届けていないため不安は残りますが、伊勢まつりでの成功を自信に変え、子どもたちが地域の価値を再発見できる教材となることを期待しています。

月別活動

- 6月 第一回打ち合わせ
- 7月 第二回打ち合わせ
- 8月 4日 神島と朝熊山の現地調査
- 19日 志摩市・南伊勢町の現地調査
- 9月 第三回打ち合わせ
- 10月 第四回打ち合わせ
- 11月 第五回打ち合わせ
- 12月 志摩市現地調査
- 3月 第六回打ち合わせ

活動を通して学んだこと

本活動を通して、私たちは伊勢志摩国立公園について、現地に足を運ぶことでしか得られない多角的な知識を習得することができました。県外出身（メンバー）の私にとって、実際にその土地を訪れて肌で感じる空気感や、現地調査で発見した新たな魅力はどれも新鮮で、非常に価値のあるものでした。こうした実体験に基づいた経験から、来年度はこれらの知識を地元の小中学生や住民の方々にも伝え、伊勢志摩国立公園の魅力をより広く認知させていきたいと感じました。

活動の大きな柱となったのは、伊勢まつりにおける「すごろく」の企画と実施です。このすごろくは、現地調査をもとに学生同士で議論を重ね、実施団体の方々にも協力いただきながら制作しました。このプロセスを通じて、多様な意見を統合し、協力することでより良いものを創り上げる「シナジー」の重要性を深く学びました。制作過程では、マスの構成や内容の精査など多くの困難に直面しましたが、それらを乗り越えて形にする中で、自分自身の企画力や表現力が磨かれたと感じています。

また、伊勢まつり当日の実践からも多くの気づきがありました。来場した子どもたちへの接し方はもちろん、スタッフによる声掛けやパネル配置の工夫一つで、集客人数が大きく変わることを痛感しました。訪れた方々が興味を持って質問をしてくださる姿に触れ、自分の発信が誰かの関心を引き出す喜びを実感することができました。「どうすれば伊勢志摩の魅力にワクワクしてもらえるか」を常に考え抜くプロセスは非常に楽しく、この経験を通じて考える力や発想力、そして他者に伝えるための表現力を身につけることができました。

本活動は、地域への理解を深めるだけでなく、企画を形にする難しさやそれを達成した際の喜び、そして他者と協力することの意義を学ぶ貴重な機会となりました。ここで培ったスキルと地域への情熱を糧に、今後も伊勢志摩国立公園のファンを増やすための活動に積極的に貢献していきたいと考えています。

実施主体からのコメント

伊勢志摩国立公園協会 ご担当者様

豊かで魅力ある伊勢志摩の自然や暮らしを未来へ継承する「ひと」を育てることを目的に、今年度は真夏と真冬の現地調査、そして伊勢まつりでのPR活動に取り組んでいただきました。

伊勢志摩地域の小学生に何を伝えるべきか悩みながらも、真夏には神島一周や朝熊山金剛寺をはじめ、伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町での調査を実施しました。真冬には英虞湾での真珠の浜揚げ作業に同行し、関係者への聞き取り調査にも挑戦しました。冬の調査では活動にも慣れ、多くの質問を投げかける姿が見られ、学生の成長を強く感じました。また、10月の伊勢まつりでは、学生が企画した「すごろく体験」をブースで呼びかけ、小さな子どもたちに丁寧に説明しながら、予想を大きく上回る約90名の方に体験していただくことができました。学生にとっても非常に貴重な経験になったことと思います。中には「来年も参加したい」と意欲を見せる学生もおり、令和8年度も本事業を継続していきたいと考えています。

担当教員より

文学部 栗林 梓

今年度、皆さんはどのような気づきがありましたか。私は皆さんと以下の2点を学びました。まず、企画・広報の重要さ、難しさ、面白さです。伊勢まつりでは伊勢志摩国立公園協会さんの周到な準備と皆さんの知恵により、想像を超える数の子どもたちが「すごろく」で遊んでくれました。常に、企画・広報を意識した活動を展開されていた公園協会さんから見習うべきことは多いです。

次に、現地調査の重要性です。当然ですが、自身が地域の魅力に気づかなければ、その魅力を子どもに伝えることもできません。地図を広げ、現地に行くことで発生したコミュニケーションの価値は大きいです。現地調査をしたことで、皆さんにとって意味のある場所として地域が「すごろく」のマスに落とし込まれました。引き続き応援しています。

成果物 / 制作物



こんな人におすすめ!

- ・現場調査から「課題発見力」を磨きたい人
- ・「発信力」と「コミュニケーション力」を高めた人
- ・好奇心旺盛で、伊勢志摩を「見て・触れて」学びたい人
- ・自らアイデアを出し、主体的に「行動」できる人